

1996年 大会記録

国際

◇ヤシャドク国際大会=男子フリースタイル(2月9~11日、トルコ・アンカラ)

▼48kg級 佐伯豊(クリナップ)=三失、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊)=三失、▼57kg級 阿部三子郎(ペンシルベニア州大)=五失、▼62kg級 和田貴広(国士大助)=優勝、▼68kg級 勝龍三郎(総合警備保障)=四失、▼74kg級 太田拓弥(茨城・霞ヶ浦高教)=4位、▼82kg級 横山秀和(日体大助)=五失、▼90kg級 川合達夫(日体大)=六失、▼100kg級 藤田和之(新日本プロレス職)=五失、▼130kg級 小幡弘之(警視庁)=三失

◇スウェーデン・カップ=男子グレコローマン(2月10~11日、スウェーデン・リドコ

ピン)

▼57kg級 内浩二(自衛隊)=三失、西見健吉(自衛隊)=四失、▼62kg級 西口茂樹(拓大職)=三失、▼68kg級 三宅靖志(東海商船)=五失、▼74kg級 片山貴光(自衛隊)=3位、▼82kg級 杉浦貴(自衛隊)=四失、▼90kg級 森山泰年(自衛隊)=四失、▼100kg級 野々村孝(香川・多度津工高教)=二失、▼130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社)=二失

◇ダン・コロフ国際大会=男子フリースタイル(2月17~18日、ブルガリア・ソフィ

ア)

▼48kg級 佐伯豊(クリナップ)=四失、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊)=6位、▼57kg級 阿部三子郎(ペンシルベニア州大)=四失、▼62kg級 和田貴広(国士大助)=優勝、▼68kg級 勝龍三郎(総合警備保障)=3位、▼74kg級 太田拓弥(茨城・霞ヶ浦高教)=2位、▼82kg級 横山秀和(日体大助)=5位、▼90kg級 川合達夫(日体大)=四失、▼100kg級 藤田和之(新日本プロレス職)=棄権、▼130kg級 小幡弘之(警視庁)=三失

◇ピールギント・カップ=男子グレコローマン(2月17~18日、ノルウェー・ボルスグ

ルン)

▼48kg級 嘉戸洋(国士舘大助)=3位、▼52kg級 内浩二(自衛隊)=棄権、▼57kg級 西見健吉(自衛隊)=優勝、▼62kg級 西口茂樹(拓大職)=4位、▼68kg級 三宅靖志(東海商船)=6位、▼74kg級 片山貴光(自衛隊)=五失、▼82kg級 杉浦貴(自衛隊)=三失、▼90kg級 森山泰年(自衛隊)=三失、▼100kg級 野々村孝(香川・多

度津工高教) = 三失、▼130kg 級 鈴木賢一 (読売千葉広告社) = 一棄

◇アクロポリス国際大会 (2月23～25日、ギリシャ・アテネ)

《男子フリースタイル》▼48kg 級 佐伯豊 (クリナップ) = 三失、▼52kg 級 笹山秀雄 (自衛隊) = 2位、▼62kg 級 和田貴広 (国士大助) = 優勝、▼68kg 級 勝龍三郎 (総合警備保障) = 優勝、▼74kg 級 太田拓弥 (茨城・霞ヶ浦高教) = 2位、▼82kg 級 横山秀和 (日体大助) = 優勝、▼90kg 級 川合達夫 (日体大) = 2位、▼100kg 級 藤田和之 (新日本プロレス職) = 棄権、▼130kg 級 小幡弘之 (警視庁) = 2位

《男子グレコローマン》▼48kg 級 嘉戸洋 (国士舘大助) = 優勝、▼52kg 級 内浩二 (自衛隊) = 3位、▼57kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 五失、▼62kg 級 西口茂樹 (拓大職) = 四失、▼68kg 級 三宅靖志 (東海商船) = 五失、▼74kg 級 片山貴光 (自衛隊) = 2位、▼82kg 級 杉浦貴 (自衛隊) = 五失、▼90kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 二失、▼100kg 級 野々村孝 (香川・多度津工高教) = 4位、▼130kg 級 鈴木賢一 (読売千葉広告社) = 棄権

◇トゥルクァン女子国際大会 (、フランス・トゥルクァン)

《シニア》▼44kg 級 織田智絵 (京都・網野高) = 優勝、中島省子 (茨城・石岡一高) = 5位、中林教子 (東京・安部学院高) = 3位、石井亜希子 (群馬・関東学園高) = 2位、▼47kg 級 坪倉志帆 (京都・網野高) = 2位、待谷ももこ (京都・網野高) = 優勝、▼50kg 級 小石原亜由美 (京都・網野高) = 3位、篠村敦子 (京都・網野高) = 順位なし、▼53kg 級 鳥海智恵子 (東京・安部学院高) = 5位、▼57kg 級 福田恵美 (東京・関東学園高) = 順位なし、横山友美 (リプレ中京女大) = 順位なし、三田寺由香 (スポーツ東急) = 3位、▼61kg 級 沢田千恵 (リプレ中京女大) = 4位、▼65kg 級 浜口京子 (代々木クラブ) = 3位、▼70kg 級 住谷礼子 (茨城・土浦日大高) = 5位、渡辺えり (木口道場) = 順位なし、▼75kg 級 鈴木美希 (茗荷谷クラブ) = 4位

《ジュニア》▼42kg 級 林知佳子 (静岡・沼津クラブ)、松下昌子 (茨城・愛宕中) = 順位なし、▼45kg 級 中林教子 (東京・安部学院高) = 3位、野口美香 (鹿児島・鹿屋チャンピオン) = 優勝、▼48kg 級 井上夕起子 (兵庫・育英クラブ) = 3位、島守紫 (青森・八戸キッズ) = 2位、吉田沙保里 (三重・一志ジュニア)、▼51kg 級 正田絢子 (大阪・吹田市民教室) = 3位、畑村恵 (群馬・畑村クラブ) = 順位なし、馬場陽子 (静岡・清水ドリームス) = 4位、山本聖子 (東京・日体パンサーズ) = 優勝、▼59kg 級 直原綾 (大阪・エンジョイ) = 2位

◇アジア選手権 (4月4～10日、中国・蕭山)

《男子フリースタイル》▼48kg 級 佐伯豊 (クリナップ) = 7位、▼52kg 級 笹山秀雄

(自衛隊) = 2位、▼57kg級 阿部三子郎(ペンシルベニア州大) = 6位、▼62kg級 和田貴広(国士大助) = 優勝、▼68kg級 勝龍三郎(総合警備保障) = 5位、▼74kg級 太田拓弥(茨城・霞ヶ浦高教) = 4位、▼82kg級 横山秀和(日体大助) = 4位、▼90kg級 川合達夫(日体大) = 3位、▼100kg級 藤田和之(新日本プロレス職) = 7位、▼130kg級 小幡弘之(警視庁) = 6位

《男子グレコローマン》▼48kg級 嘉戸洋(国士舘大助) = 3位、▼52kg級 内浩二(自衛隊) = 9位、▼57kg級 西見健吉(自衛隊) = 2位、▼62kg級 西口茂樹(拓大職) = 7位、▼68kg級 三宅靖志(東海商船) = 3位、▼74kg級 片山貴光(自衛隊) = 2位、▼82kg級 杉浦貴(自衛隊) = 5位、▼90kg級 森山泰年(自衛隊) = 7位、▼100kg級 野々村孝(香川・多度津工高教) = 3位、▼130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社) = 2位

《女子》▼44kg級 吉村祥子(スポーツ東急) = 優勝、▼47kg級 足立美穂(東洋大) = 優勝、▼50kg級 木村こず恵(東洋大) = 2位、▼53kg級 栄涼子(リブレ中京女大) = 優勝、▼57kg級 清水真理子(東洋大) = 優勝、▼61kg級 宮崎未樹子(住友海上火災) = 優勝、▼65kg級 浦野弥生(京樽) = 優勝、▼70kg級 浜口京子(東京・東京周栄クラブ) = 優勝、▼75kg級 住谷礼子(東洋大) = 3位

◇ナガテヌリ・カップ=男子フリースタイル(4月25~26日、イラン・マホモダバッド)

ド)

▼46kg級 吉沢克洋(長野・北佐久農高) = 四失、奈木野孝彦(福岡・豊国学園高) = 四失、▼50kg級 藤田康人(兵庫・神戸西) = 四失、▼54kg級 浜守甚之介(富山・富山一高) = 二失、▼58kg級 平隆介(大阪・近大付高) = 三失、▼63kg級 橋本浩(神奈川・柏陽高) = 三失、西岡光人(大阪・大阪市立) = 三失、▼68kg級 森田和慎(大阪・近大付高) = 二失、▼74kg級 金子亮平(山口・鴻城高) = 三失、▼81kg級 里村彰(青森・光星学院高野辺地工高) = 三失、▼88kg級 渡辺竜太(新潟・新潟工高) = 二失、▼115kg級 姫路文博(大阪・大体大浪商) = 二失

◇メドベジ国際大会=男子フリースタイル(5月17~19日、ベラルーシ・ミンスク)

▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊) = 5位、▼68kg級 勝龍三郎(総合警備保障) = 三失、▼74kg級 太田拓弥(茨城・霞ヶ浦高教) = 二棄、▼82kg級 横山秀和(日体大助) = 三失、▼90kg級 川合達夫(日体大助) = 3位

◇ハンガリー・グランプリ=男子グレコローマン(5月18~19日、ハンガリー・ゼケス

フェヘルバー)

▼52kg級 嘉戸洋(国士舘大助) = 一棄、▼57kg級 西見健吉(自衛隊) = 5位、▼68kg

級 三宅靖志(東海商船) = 四失、▼74kg 級 片山貴光(自衛隊) = 3 位、▼100kg 級 野々村孝(香川・多度津工高教) = 6 位、▼130kg 級 鈴木賢一(読売千葉広告社) = 三失

◇アトランタ五輪(7月20日～8月2日、米国・アトランタ)

《男子フリースタイル》▼52kg 笹山英雄(自衛隊) = 9 位、▼57kg 阿部三子郎(ペンシルベニア州立大大学院) = 9 位、▼62kg 和田貴広(国士大助手) = 4 位、▼74kg 太田拓弥(茨城・霞ヶ浦高教) = 3 位、▼82kg 横山秀和(日体大助手) = 11 位、▼90kg 川合達夫(日体大助手) = 19 位

《男子グレコローマン》▼48kg 嘉戸洋(国士大助手) = 7 位、▼57kg 西見健吉(自衛隊) = 8 位、▼68kg 三宅靖志(東海商船) = 16 位、▼74kg 片山貴光(自衛隊) = 8 位、▼100kg 野々村孝(香川・多度津工高教) = 9 位、▼130kg 鈴木賢一(読売千葉広告社) = 8 位

◇世界ジュニア選手権=男子フリースタイル(8月13～16日、ロシア・モスクワ)

▼46kg 級 鈴木猛雄(静岡・沼津学園高) = 5 位、▼50kg 級 浅野宗睦(岐阜・岐阜三高) = 三失、▼54kg 級 船越聡(栃木・足利工大付高) = 五失、▼58kg 級 太田亮介(茨城・土浦日大高) = 4 位、▼63kg 級 笥田幸宏(茨城・霞ヶ浦高) = 7 位、▼68kg 級 鈴木豊(埼玉・埼玉栄高) = 二失、▼74kg 級 浜中和宏(青森・光星学院高) = 二失、▼81kg 級 佐伯智彦(京都・南京都高) = 三失、▼88kg 級 高田和彦(群馬・関東学園高) = 三失、▼115kg 級 矢野通(東京・京北高) = 二失

◇世界カデット選手権(8月13～16日、イラン・テヘラン)

《男子フリースタイル》▼40kg 級 鈴木一美(千葉・睦沢中) = 10 位、▼43kg 級 大迫博文(千葉・流山八木中) = 14 位、▼47kg 級 浅野篤司(岐阜・岐阜厚見中) = 14 位、▼51kg 級 藤本健太(大阪・吹田五中) = 18 位、▼55kg 級 山口徹馬(大阪・吹田四中) = 15 位、▼60kg 級 岩山元彦(岐阜・羽島竹鼻中) = 13 位、▼65kg 級 小山裕之(大阪・茨城北中) = 16 位、▼70kg 級 平沢光秀(北海道・札幌八条中) = 16 位、▼76kg 級 平沢昌大(北海道・札幌八条中) = 20 位、▼83kg 級 伊勢持佑輝(千葉・野田一中) = 11 位、▼95kg 級 西田耕一郎(大阪・寝屋川中木田中) = 12 位

《男子グレコローマン》▼40kg 級 今井仁一(群馬・富岡西中) = 14 位、▼43kg 級 = 出場なし、▼47kg 級 谷元浩司(大阪・吹田佐井寺中) = 14 位、▼51kg 級 大津卓睦(千葉・八千代松陰高) = 14 位、▼55kg 級 = 出場なし、▼60kg 級 戸張正広(千葉・西武台千葉高) = 16 位、▼65kg 級 石川晃(徳島・貞光工高) = 17 位、▼70kg 級 = 出場なし、▼76kg 級 = 出場なし、▼83kg 級 疋田拓也(栃木・足利工大付高) = 12 位、▼95kg 級 青木大輔(岡

山・倉敷高) =12 位

◇世界ジュニア選手権=男子グレコローマン(8月26日~9月1日、ポーランド・ウォルブレイス)

▼46kg 級 浅沼誠(三重・松阪工高) = 二失、▼50kg 級 裕英博(近大) = 二失、▼54kg 級 大野国広(新潟・新潟北高) = 三失、▼58kg 級 児玉全一(三重・員弁高) = 三失、▼63kg 級 鈴木俊英(千葉・野田北高) = 二失、▼68kg 級 須藤元気(拓大) = 二失、▼74kg 級 菅太一(東京・京北高) = 三失、▼81kg 級 松本慎吾(日体大) = 9 位、▼88kg 級 沖野圭一(京都・網野高) = 二失、▼115kg 級 阿久津智雅(栃木・馬頭高) = 二失

◇世界選手権=女子(8月29~31日、ブルガリア・ソフィア)

▼44kg 級 吉村祥子(TBC東京ビューティセンター) = 3 位、▼47kg 級 足立美穂(東洋大) = 3 位、▼50kg 級 遠藤美子(東洋大職) = 2 位、▼53kg 級 栄涼子(リプレ中京女大) = 3 位、▼57kg 級 三田寺由香(スポーツ東急) = 4 位、▼61kg 級 宮崎未樹子(住友海上火災) = 優勝、▼65kg 級 浦野弥生(京樽) = 優勝、▼70kg 級 浜口京子(東京周栄ク) = 7 位、▼75kg 級 住谷礼子(東洋大) = 7 位

◇サンキスト・オープン(11月2~3日、米国・フェニックス)

《男子フリースタイル》▼52kg 級 本田原明(自衛隊) = 二失、田村茂一(自衛隊) = 優勝、山口英雄(クリナップ) = 二失、▼62kg 級 石嶋勇次(総合警備保障) = 三失、矢山裕明(熊本・玉名工高教) = 四失、横瀬二郎(広島ガスプロパン) = 五失、▼68kg 級 吉本収(小又設計) = 五失、▼82kg 級 角崎朋博(山形ク) = 5 位、▼90kg 級 石庭新五(アイシン精機)、▼100kg 級 和田敏行(クリナップ) = 三棄

《男子グレコローマン》▼48kg 級 森下浩(和歌山ク)、▼57kg 級 西島隆(警視庁)、▼62kg 級 元木康年(自衛隊)、▼68kg 級 永田克彦(警視庁)、▼74kg 級 今村浩之(クリナップ)、▼82kg 級 喜村健作(熊本県ク)、木下英規(自衛隊)、▼90kg 級 吉田幸司(福島・須賀川高教)、▼130kg 級 瀬川浩寿(警視庁)

◇クラブカップ・インターコンチネンタル大会=男子フリースタイル(11月9~10日、マケドニア・ラドビス)

4 位(3 敗)

1 回戦 日本● [2-8] ○マケドニア

2 回戦 日本● [1-9] ○米国

3 回戦 日本● [1-9] ○ナイジェリア

《個人順位》▼48kg級 吉田貴弘（日大）＝4位、▼52kg級 本間洋士（日大）＝4位、▼57kg級 榎沢智治（日大）＝優勝、▼62kg級 佐藤仁（日大）＝4位、▼68kg級 伊東克佳（日大）＝2位、▼74kg級 大森篤志（日大）＝4位、▼82kg級 亀田伸也（日大）＝4位、▼90kg級 高田浩也（日大）＝4位、▼100kg級 木内樹（宮越工芸）＝4位、▼130kg級 清水善光（富山・富山一高教）＝4位

◇世界学生選手権（12月5～6日、イラン・テヘラン）

《男子フリースタイル》▼48kg級 田岡師範（山梨学院大）＝5位、▼52kg級 中津光春（大東大）＝二失、▼57kg級 井上謙二（日大）＝6位、▼62kg級 谷山裕治（日体大）＝三失、▼68kg級 織山昭仁（日体大）＝二失、▼74kg級 柴田寛（東農大）＝二失、▼82kg級 花田眞秀（国士舘大）＝二失、▼90kg級 小菅裕司（日体大）＝三失、▼100kg級 早坂雅和（日大）＝三失、▼130kg級 吉田清太郎（国士舘大）＝二失

《男子グレコローマン》▼48kg級 村田知也（日体大）＝3位、▼52kg級 豊田雅俊（拓大）＝3位、▼57kg級 弓矢完二（日体大）＝6位、▼62kg級 石田亮一（日体大）＝二失、▼68kg級 倉本忠（日体大）＝四失、▼74kg級 宮本浩次（日体大）＝二失、▼82kg級 金沢紀行（拓大）＝三失、▼90kg級 佐藤亘（国士舘大）＝6位、▼100kg級 篠崎正二（日体大）＝5位、▼130kg級 坂下昇（専大）＝4位

国内

◇アジア選手権代表決定プレーオフ（2月4日、東京・スポーツ会館）

《勝者》▼男子フリースタイル 48kg級 佐伯豊（日大）、▼男子グレコローマン 48kg級 嘉戸洋（国士舘大助）

◇全国高校選抜大会（3月27～29日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年連続8度目）、[2] 京都・立命館宇治、[3] 静岡・沼津学園、長野・上田西

《個人戦優勝者》▼46kg級 吉沢克洋（長野・北佐久農）、▼50kg級 浅野宗睦（岐阜・岐阜工）、▼54kg級 野口勝（鹿児島・鹿屋中央）、▼58kg級 太田亮介（茨城・土浦日大）、▼63kg級 笥田幸宏（茨城・霞ヶ浦）、▼68kg級 池田秀治（茨城・霞ヶ浦）、▼74kg級 浜中和宏（青森・光星学院）、▼115kg級 矢野通（東京・京北）

◇JOC杯ジュニアオリンピック（4月26～28日、神奈川・横浜文化体育館）

《男子エスポワール・フリースタイル優勝者》▼48kg級 松橋弘幸（国士舘大）、▼52kg

級 森田武士（日大）、▼57kg級 久米貴幸（日体大）、▼62kg級 山縣健二（日体大）、▼68kg級 川鍋辰徳（日大）、▼74kg級 武田雅也（東農大）、▼82kg級 今村雄介（日体大）、▼90kg級 土居克也（日体大）、▼100kg級 早坂雅和（日大）、▼130kg級 吉田清太郎（国士舘大）

《男子エスポワール・グレコローマン優勝者》▼48kg級 村田知也（日体大）、▼52kg級 豊田雅俊（拓大）、▼57kg級 房原智弥（国士舘大）、▼62kg級 竹花良二（国士舘大）、▼68kg級 大井将憲（拓大）、▼74kg級 倉本忠（日体大）、▼82kg級 奥沢純（東洋大）、▼90kg級 花田秀一郎（東洋大）、▼100kg級 吉田博満（大東大）、▼130kg級 鈴木克彰（拓大）

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》▼46kg級 鈴木猛雄（静岡・沼津学園高）、▼50kg級 浅野宗睦（岐阜・岐阜工高）、▼54kg級 船越聡（栃木・足利工大付高）、▼58kg級 太田亮介（茨城・土浦日大高）、▼63kg級 笥田幸宏（茨城・霞ヶ浦高）、▼68kg級 鈴木豊（埼玉・埼玉栄高）、▼74kg級 浜中和宏（青森・光星学院高）、▼81kg級 佐伯智彦（京都・南京都高）、▼88kg級 高田和彦（群馬・関東学園高）、▼115kg級 矢野通（東京・京北高）

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼46kg級 浅沼誠（三重・松阪工高）、▼50kg級 裕英博（近大）、▼54kg級 大野国広（新潟・新潟北高）、▼58kg級 児玉全一（三重・員弁高）、▼63kg級 鈴木俊英（千葉・野田北高）、▼68kg級 須藤元気（拓大）、▼74kg級 菅太一（東京・京北高）、▼81kg級 松本慎吾（日体大）、▼88kg級 沖野圭一（京都・網野高）、▼115kg級 塚田良（青山学院大）

《男子カデット・グレコローマン優勝者》▼40kg級 今井仁一（群馬・富岡ク）、▼43kg級＝出場なし、▼47kg級 谷元浩司（大阪・吹田市民教室）、▼51kg級 大津卓睦（千葉・八千代松陰高）、▼55kg級 水口貴之（京都・立命館宇治高）、▼60kg級 木村正広（千葉・西武台千葉高）、▼65kg級 石川晃（徳島・貞光工高）、▼70kg級 高塚慎吾（大阪・吹田高）、▼76kg級 仙波勝敏（京都・立命館宇治高）、▼83kg級 疋田拓也（栃木・足利工大付高）、▼95kg級 青木大輔（岡山・倉敷高）

《男子カデット・フリースタイル優勝者》▼40kg級 織田康博（京都・網野教室）、▼43kg級 柳田明佳（東京・京北高）、▼47kg級 松永共広（静岡・沼津学園高）、▼51kg級 本橋俊一（茨城・霞ヶ浦高）、▼55kg級 大館信也（青森・八戸キッズ）、▼60kg級 林剛（新潟・新潟北高）、▼65kg級 増田真之（和歌山・和歌山東高）、▼70kg級 春木真宏（大阪・同志社香里高）、▼76kg級 小幡邦彦（茨城・霞ヶ浦高）、▼83kg級 久田恵一

(神奈川・横須賀ク)、▼95kg級 西田耕一朗(大阪・エンジョイ)

《女子》▼40kg級 平岡深雪(三重・一志ジュニア)、▼44kg級 織田智絵(京都・網野高)、▼48kg級 中林教子(東京・安部学院高)、▼52kg級 山本聖子(神奈川・日体パンサーズ)、▼56kg級 鈴木亜里(日大)、▼60kg級 福田恵美(代々木クラブ)、▼65kg級 高橋理恵子(群馬・千代田ジュニア)、▼70kg級 浜口京子(東京・東京周栄クラブ)

◇全日本女子選手権出場者決定戦(4月28日、東京駒沢体育館)

※各級1位が5月20日の全日本選手権へ(アジア選手権とのからみにより、分離開催)

◇全日本社会人選手権(5月3～4日、福島・クリナップ体育館)

《団体戦優勝チーム》▼実業団 クリナップ、▼クラブ 広島県協会

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 本田原明(自衛隊)、▼52kg級 田村茂一(自衛隊)、▼57kg級 石嶋勇次(総合警備保障)、▼62kg級 矢山裕明(熊本県ク)、▼68kg級 吉本収(神奈川県協会)、▼74kg級 小柴健二(広島県協会)、▼82kg級 角崎朋博(山形ク)、▼90kg級 石庭新五(アイシン精機)、▼100kg級 和田敏行(クリナップ)、▼130kg級 瀬川浩寿(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 森下浩(和歌山ク)、▼52kg級 尾白賢治(和歌山ク)、▼57kg級 桜井正人(自衛隊)、▼62kg級 元木康年(自衛隊)、▼68kg級 永田克彦(警視庁)、▼74kg級 今村浩之(クリナップ)、▼82kg級 喜村健作(熊本県ク)、▼90kg級 木下英規(自衛隊)、▼100kg級 吉田幸司(福島・須賀川高教)、▼130kg級 浜上稔(福島・磐城農高教)

◇全日本女子選手権(5月20日、東京・明治記念館)

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子(TBC東京ビューティセンター)、▼47kg級 足立美穂(東洋大)、▼50kg級 遠藤美子(東洋大職)、▼53kg級 栄涼子(中京女大大学院)、▼57kg級 三田寺由香(スポーツ東急)、▼61kg級 宮崎未樹子(住友海上火災)、▼65kg級 浦野弥生(京樽)、▼70kg級 浜口京子(東京周栄ク)、▼75kg級 住谷礼子(東洋大)、▼75kg以上級=出場なし

◇東日本学生リーグ戦(5月22～23、30～31日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1] 日体大(18年連続20度目)、[2] 山梨学院大、[3] 国士大、[4] 日大、[5] 東洋大、[6] 大東大、[7] 拓大、[8] 専大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月25～26日、大阪・大阪府立体育館第2体育館）

《順位》[1] 福岡大（3季ぶり17度目）、[2] 徳山大、[3] 桃山学院大、[4]、[5]、[6]、[7]、[8]

◇全国中学生選手権（6月15～16日、茨城・茨城県立スポーツセンター）

《優勝者》▼35kg級 長谷川拓也（静岡・焼津）、▼40kg級 足立孝同（愛知・尾西三）、▼43kg級 和田宗法（千葉・木間ヶ瀬）、▼47kg級 浅野篤司（岐阜・厚見）、▼51kg級 藤本健太（大阪・吹田五）、▼55kg級 山口徹馬（大阪・摂津四）、▼60kg級 岩山元彦（岐阜・竹鼻）、▼65kg級 小山裕之（大阪・茨木北）、▼70kg級 平沢光秀（北海道・八条）、▼76kg級 平沢昌大（北海道・八条）、▼83kg級 大勢持佑輝（千葉・野田一）、▼95kg級 西田耕一朗（大阪・中木田）

◇東日本学生春季新人戦（6月19～21日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 松橋弘幸（国士舘大）、▼52kg級 高橋重信（東洋大）、▼57kg級 井上謙二（日大）、▼62kg級 山縣健二（日体大）、▼68kg級 川鍋辰徳（日大）、▼74kg級 柴田司（日体大）、▼82kg級 今村雄介（日体大）、▼90kg級 河崎義範（日大）、▼100kg級 土居克也（日体大）、▼130kg級 鈴木克彰（拓大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 宮本秀司（東洋大）、▼52kg級 高橋重信（東洋大）、▼57kg級 平戸孝広（山梨学院大）、▼62kg級 石田亮一（日体大）、▼68kg級 大井将憲（拓大）、▼74kg級 中村征司（山梨学院大）、▼82kg級 田守太郎（山梨学院大）、▼90kg級 長島康弘（中大）、▼100kg級 吉田博満（大東大）、▼130kg級 鈴木克彰（拓大）

◇西日本学生新人戦（6月29～30日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 搦池典雄（徳山大）、▼52kg級 松田尚弘（近大）、▼57kg級 村田亮（南九州大）、▼62kg級 本間隆行（徳山大）、▼68kg級 葭田隆夫（福岡大）、▼74kg級 大橋理秀（桃山学院大）、▼82kg級 松本宏樹（徳山大）、▼90kg級 谷口周平（徳山大）、▼130kg級 大林正一（近大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 北畑昌哉（桃山学院大）、▼52kg級 岸本允也（徳山大）、▼57kg級 村田亮（南九州大）、▼62kg級 森浩也（福岡大）、▼68kg級 葭田隆夫（福岡大）、▼74kg級 大橋理秀（桃山学院大）、▼82kg級 谷口周平（徳山大）、▼90kg級 中川満春（桃山学院大）、▼130kg級 平松大樹（徳山大）

◇インターハイ（8月8～11日、山梨・甲府市小瀬スポーツ公園体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（7年連続10度目）、[2] 青森・光星学院、[3] 長野・上田西、山梨・峡北

《個人戦優勝者》▼46kg級 吉沢克洋（長野・北佐久農）、▼50kg級 高橋利典（長野・上田西）、▼54kg級 船越聡（栃木・足利工大付）、▼58kg級 太田亮介（茨城・土浦日大）、▼63kg級 笥田幸宏（茨城・霞ヶ浦）、▼68kg級 池田秀治（茨城・霞ヶ浦）、▼74kg級 藤田尚志（茨城・霞ヶ浦）、▼115kg級 矢野通（東京・京北）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月16～18日、大阪・茨木市立市民体育館）

《優勝者》▼46kg級 倉本大地（広島・広島電大付）、▼50kg級 山関重人（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 平井進悟（長野・上田西）、▼58kg級 山田久志（群馬・関東学園）、▼63kg級 吉沢剛（長野・上田西）、▼68kg級 池田秀治（茨城・霞ヶ浦）、▼74kg級 金子亮平（山口・鴻城）、▼81kg級 藤田尚志（茨城・霞ヶ浦）、▼87kg級 丸山真太郎（長野・上田西）、▼115kg級 増田貴之（千葉・八千代松陰）

◇第1回全日本女子学生選手権（8月18日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》▼44kg級 清水美里（東京女体大）、▼47kg級 大門まい子（中京女大）、▼50kg級 待谷ももこ（日大）、▼53kg級 横山友美（中京女大）、▼57kg級 鈴木亜里（日大）、▼61kg級 江中和世（中京女大）、▼65kg級 加藤ミエ（中京女大）、▼70kg級=出場なし、▼75kg級=出場なし

◇全国高校女子選手権（8月18日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》▼40kg級 富永めぐみ（埼玉・東洋大倶楽部）、▼44kg級 織田智絵（京都・網野）、▼47kg級 石井亜希子（群馬・関東学園）、▼50kg級 篠村敦子（京都・網野）、▼53kg級 山本英代（岐阜・岐阜工）、▼57kg級 糸井沙織（京都・網野）、▼61kg級 六軒奈津子（EIKOHク）、▼65kg級 越智雅子（愛媛・今治南）、▼70kg級 須永綾佳（群馬・太田商）、▼75kg級 園田有美（東京・安部学院）

◇全国女子中学選手権（8月18日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》▼40kg級 平岡深雪（三重・一志ジュニア）、▼44kg級 野口美香（鹿児島・鹿屋チャンピオン）、▼48kg級 吉田沙保里（三重・一志ジュニア）、▼52kg級 横山映利子（三重・一志ジュニア）、▼56kg級 正田絢子（大阪・吹田市民教室）、▼60kg級 中村淑恵（青森・八戸ク）、▼65kg級 本田麻美（茨城・愛宕中）

◇全日本学生選手権（8月28～31日、岡山・倉敷市福田公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 田岡師範（山梨学院大）、▼52kg級 戸井田

昌教（国士舘大）、▼57kg級 井上謙二（日大）、▼62kg級 谷山祐治（日体大）、▼68kg級 織山昭仁（日体大）、▼74kg級 柴田寛（東農大）、▼82kg級 花田眞秀（国士舘大）、▼90kg級 小菅裕司（日体大）、▼100kg級 篠崎正二（日体大）、▼130kg級 吉田清太郎（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 村田知也（日体大）、▼52kg級 豊田雅俊（拓大）、▼57kg級 弓矢完二（日体大）、▼62kg級 石田亮一（日体大）、▼68kg級 倉本忠（日体大）、▼74kg級 宮本浩次（日体大）、▼82kg級 金沢紀行（拓大）、▼90kg級 小菅裕司（日体大）、▼100kg級 篠崎正二（日体大）、▼130kg級 室谷正憲（日体大）

◇全日本学生王座決定戦（9月15～16日、東京・駒沢体育館）＝団体の勝ち点方式

《順位》[1] 日体大（7年連続19度目）、[2] 国士舘大、[3] 日大

◇西日本学生選手権（9月27～29日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 松尾大樹（福岡大）、▼52kg級 大丸智（徳山大）、▼57kg級 上田彰夫（近大）、▼62kg級 葭田隆夫（福岡大）、▼68kg級 富田雅彦（南九州大）、▼74kg級 大橋理秀（桃山学院大）、▼82kg級 水野輝基（徳山大）、▼90kg級 小林研二（徳山大）、▼130kg級 福島英治（福岡大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 松尾大樹（福岡大）、▼52kg級 裕英博（近大）、▼57kg級 村田亮（南九州大）、▼62kg級 葭田隆夫（福岡大）、▼68kg級 徳丸久紀（徳山大）、▼74kg級 大橋理秀（桃山学院大）、▼82kg級 水野輝基（徳山大）、▼90kg級 糟谷智也（徳山大）、▼130kg級 福島英治（福岡大）

◇国民体育大会（10月13～16日、広島・大崎町中野小、広島商船高専）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 田岡師範（北海道・山梨学院大）、▼52kg級 戸井田昌教（茨城・国士舘大）、▼57kg級 石嶋勇次（山梨・総合警備保障）、▼62kg級 横瀬二郎（広島・広島ガスプロパン）、▼68kg級 織山昭人（秋田・日体大）、▼74kg級 小柴健二（広島・フジキチ）、▼82kg級 中尾芳弘（埼玉・自衛隊）、▼90kg級 和田敏行（福島・クリナップ）、▼100kg級 川合達夫（群馬・日体大助手）、▼130kg級 吉田清太郎（秋田・国士舘大）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元（三重・県体協）、▼52kg級 中森昭平（広島・県立総合体育館）、▼57kg級 深水真司（広島・広島電大付高教）、▼62kg級 林雄一（新潟・豊栄高教）、▼68kg級 倉本忠（滋賀・日体大）、▼74kg級 片山貴光（埼玉・自衛隊）、▼82kg級 渡部秀隆（福島・渡部左官）、▼90kg級 篠原健一郎（徳

島・自営)、▼100kg級 野々村孝(香川・多度津工高教)、▼130kg級 出口一也(和歌山・県教育庁)

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 鈴木猛雄(静岡・沼津学園)、▼50kg級 高橋利典(長野・上田西)、▼54kg級 船越聡(栃木・足利工大付)、▼58kg級 太田亮介(茨城・土浦日大)、▼63kg級 目時透(青森・)、▼68kg級 鈴木豊(埼玉・埼玉栄)、▼74kg級 浜中和宏(青森・光星学院)、▼81kg級 藤田尚志(茨城・霞ヶ浦)、▼88kg級 小平清貴(茨城・霞ヶ浦)、▼115kg級 矢野通(東京・京北)

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 鴻巣伸彦(茨城・霞ヶ浦)、▼50kg級 松川昌生(熊本・玉名工)、▼54kg級 平井進悟(長野・上田西)、▼58kg級 小野田純(京都・立命館宇治)、▼63kg級 鈴木俊英(千葉・)、▼68kg級 池田秀治(茨城・霞ヶ浦)、▼74kg級 菅太一(東京・京北)、▼81kg級 木村孝夫(青森・)、▼88kg級 飯島公人(北海道・)、▼115kg級 増田貴之(千葉・八千代松陰)

◇全日本女子オープン選手権(10月26日、新潟・十日町市総合体育館)

《優勝者》▼44kg級 織田智恵(京都・網野高)、▼47kg級 木村こず恵(東洋大倶楽部)、▼50kg級 足立美穂(東洋大)、▼53kg級 栄涼子(リプレ中京女大)、▼57kg級 清水真理子(東洋大)、▼61kg級 宮崎未樹子(住友海上火災保険)、▼65kg級 浦野弥生(京樽)、▼70kg級 浜口京子(浜口ジム)、▼75kg級 富岡多恵子(茨城・土浦日大高)、▼75kg以上級=出場なし

◇全日本大学グレコローマン選手権(11月2~3日、東京・駒沢体育館)

《優勝者》▼48kg級 村田知也(日体大)、▼52kg級 豊田雅俊(拓大)、▼57kg級 弓矢完二(日体大)、▼62kg級 石田亮一(日体大)、▼68kg級 大西一也(山梨学院大)、▼74kg級 植村洋二(日体大)、▼82kg級 田守太郎(山梨学院大)、▼90kg級 小菅裕司(日体大)、▼100kg級 篠崎正二(日体大)、▼130kg級 鈴木克彰(拓大)

《大学対抗得点》[1] 日体大(8年連続8度目)、[2] 拓大、[3] 山梨学院大

◇全日本大学選手権(11月9~10日、大阪・吹田北千里体育館)

《優勝者》▼48kg級 忌部公介(東洋大)、▼52kg級 森田武士(日大)、▼57kg級 井上謙二(日大)、▼62kg級 谷山祐治(日体大)、▼68kg級 斎藤柔(日大)、▼74kg級 本名栄仁(日体大)、▼82kg級 高橋善孝(日大)、▼90kg級 花田眞秀(国土館大)、▼100kg級 篠崎正二(日体大)、▼130kg級 滝沢慎(日大)

《大学対抗得点》[1] 日大（12年ぶり2度目）、[2] 日体大、[3] 国士舘大

◇全国社会人オープン選手権（11月23～24日、神奈川・六ツ川高）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 土屋忠彦（日南市協会）、▼52kg級 山口英雄（クリナップ）、▼57kg級 平井信寛（宮越工芸）、▼62kg級 奥屋敷賢彦（横須賀自衛隊）、▼68kg級 松元大吉（警視庁）、▼74kg級 山方政人（総合警備保障）、▼82kg級 喜村健作（北熊本自衛隊）、▼90kg級 木内樹（宮越工芸）、▼100kg級 和田敏行（クリナップ）、▼130kg級 十川健二（宮崎・清武養護学教）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 砺波学練（河合道場）、▼52kg級 小高浩二（員弁クラブ）、▼57kg級 福崎道大（川内自衛隊）、▼62kg級 西田哲人（自衛隊）、▼68kg級 宮本泰司（自衛隊）、▼74kg級 今村浩之（クリナップ）、▼82kg級 喜村健作（北熊本自衛隊）、▼90kg級 加藤英之（宮城電子工クラブ）、▼100kg級 川島一則（クリナップ）、▼130kg級 無田貞之（セコム上信越）

◇東日本学生秋季新人戦（11月26～28日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 三浦周（東農大）、▼52kg級 荒巻正博（山梨学院大）、▼57kg級 高橋重信（東洋大）、▼62kg級 佐藤貴士（日体大）、▼68kg級 柳川美磨（日体大）、▼74kg級 溝上誠治（日体大）、▼82kg級 小坂健太郎（中大）、▼90kg級 阿部建太（日大）、▼100kg級 早坂雅和（日大）、▼130kg級 今村雄介（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 村田知也（日体大）、▼52kg級 藤野寿（日体大）、▼57kg級 上田将勝（国士舘大）、▼62kg級 奥隆洋（拓大）、▼68kg級 藤川和男（日体大）、▼74kg級 長岡卓也（拓大）、▼82kg級 松本慎吾（日体大）、▼90kg級 伴戸宏行（拓大）、▼100kg級 早坂雅和（日大）、▼130kg級 福田清貴（日体大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月30日～12月1日、大阪・大阪府立体育会館第2競技場）

《順位》[1] 徳山大（2季ぶり11度目）、[2] 福岡大、[3] 桃山学院大、[4] 同志社大、[5] 近大、[6] 南九州大

◇全日本選手権（12月21～23日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 田南部力（日体大）、▼58kg級 石島勇次（総合警備保障）、▼63kg級 坪井勇（福島・四倉高教）、▼69kg級 勝龍三郎（総合警備保障）、▼76kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）、▼85kg級 川合達夫（日体大助）、▼97kg

級 小菅裕司（日体大）、▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg 級 佐々木昌常（自衛隊）、▼58kg 級 西見健吉（自衛隊）、▼63kg 級 元木康年（自衛隊）、▼69kg 級 三宅靖志（東海商船）、▼76kg 級 片山貴光（自衛隊）、▼85kg 級 佐々木秀幸（香川・飯山中教）、▼97kg 級 山口孝二（自衛隊）、▼130kg 級 浜上稔（福島・磐城農高教）